

第3回 スマート・エコパークに関する検討会 議事要旨

日 時：平成27年1月28日（水）10:00～12:00

場 所：経済産業省別館5階511共用会議室

出席者：中村委員（座長）、白井委員、鈴木委員、二瓶委員代理（長谷川委員代理出席）、松本委員、山本委員、星野委員、深瀬委員、戸高委員、豊島委員

議題：1. 福島県の産業再生に向けて
2. 先進的リサイクル事業に関する情報提供
3. 福島県における廃棄物処理の現状と課題

議事概要：

（1）福島県の産業再生に向けて
福島県の産業の現状や復興計画、県として考える今後のリサイクル産業振興の具体的事業の提案や構想実現に向けての課題等について鈴木委員より説明。

（2）先進的リサイクル事業に関する情報提供
車載用大型リチウムイオン電池の4Rビジネスについてフォーアールエナジー株式会社より説明。使用済紙おむつの燃料化リサイクルについて株式会社スーパー・フェイズより説明。

（3）福島県における廃棄物処理の現状と課題
福島県における災害廃棄物処理のこれまでの取組や課題、処理困難物に係る処理体制の構築や再生利用先の確保等の対応について二瓶委員代理より説明。

（4）委員等からの主な意見等は以下のとおり。

- ・ 地元の住民や企業が共通イメージを抱ける方向性が必要。地域で生まれるものを活用してリサイクル企業を集積させ、持続可能な地域づくりに繋げていくイメージは地域で理解を得られやすいのではないかと。
- ・ 県として、バイオマスタウン、石炭灰混合材料製造拠点、太陽光パネル・バッテリー再資源化拠点、炭素繊維再資源化拠点の4つのイメージを提案。実現に向けた課題には、実証事業や立地への支援、人材育成等がある。
- ・ 車載用リチウムイオン電池は様々な取組がなされているが、さらなる技術開発などを検討する拠点がこうした地域で取り組めれば面白い。
- ・ 紙おむつの燃料（RPF）化は、どううまく収集するかが大きなポイント。地域の事情に合わせた規模で合理的に稼働できるかに課題はあるが、一般の焼却炉の横で使用するという方法等は十分に現実的であると考えている。
- ・ 地域における今後の廃棄物処理やリサイクルについて、廃棄物処理法上の特例は非常に効果的で、今後の処理を考える上でも重要。スマート・エコパークでも特区のような考え方を入れ込んでもいいのではないかと。